

第2回栗東市観光振興会議 会議概要

- 日時： 令和元年7月31日（水） 午後3時00分～午後4時30分
- 場所： 栗東市歴史民俗博物館会議室
- 出席： <委員>
田中由美委員、林優里委員、藤岡光人委員、鶴田泰伸委員、山口翔太郎委員、
築地達郎委員、福島森委員
<事務局>
商工観光労政課駒井課長、商工観光労政課濱田係長、
商工観光労政課事務局担当 中野、佐藤
しがぎん経済文化センター 稲木氏、長山氏

1. 開会

（商工観光労政課長挨拶）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

事務局より、本日の傍聴者は0名と報告された。

4. 案件

（1）栗東市観光振興ビジョン策定について（資料：栗東市観光振興ビジョン策定のための検討資料について）

（事務局より資料説明）

会 長： 今回、資料18ページの「基本理念」と「基本方針」を事務局にまとめていただいた。この提案を元に議論をしていきたい。

事務局： 基本構想をもとにした基本理念、基本方針ということで、たたき台を作成した。

たたき台なので、皆さんにご協議いただき、変更等させていただけたらと思っている。よろしくお願いします。

会 長： 文字にするとかなり抽象的な印象もあるが、考え方としては、前回の議論では、外から客を引っ張り込んでくるというよりも、自分たち自身がこのまちに

対して愛着や誇りを持ち、それらを高めていき、それで魅力のあるまちづくりをするということによって、おのずと観光客が入ってきてくれるということになるのではないのかという考え方が、方向性として出たように思う。

それを踏まえて、基本理念では「外からお客さんを引っ張ってくる」というよりむしろ、4段落目にあるように、「当市に関わる誰もが健やかに、元気に、そしていつまでも住み続けたい、関わり続けたいと思えるような」というふうに、当事者に対する働きかけを前面に押し出しているというのが、このたたき台の考え方の大きな特徴である。

基本方針も、まずは自分たちが誰なのかということについての「物語の再発見」と「誇りの創出」という点に1つ目の方針を置き、それを支える2つ目、3つ目の方針として、「歴史と文化の伝承」、「自然との出会いと保全活動の充実」というふうに組み立てている。

以上を受けとめていただいた上で、ご意見やご感想をお聞かせいただきたい。

委員： 基本構想に基づいてということだが、14 ページの SWOT 分析の中に、基本理念の1段落目の「旧五街道」というのも含めて、街道というのが一切出てきていない。どちらかというと神社、古墳群ということで、今日の会場である歴史民俗博物館でも農耕に関する資料が多く飾ってあるように記憶しているが、そういう中で「旧五街道」が基本理念にぼんと出てくることに違和感がある。

あわせて、東海道と中山道の2本が通っている自治体が全国で2市しかないという記述がある。その次の JRA トレーニングセンターが全国に2カ所しかないという記述は何となくすごさを感じるが、旧街道については2市のみのすごさが今までの基本構想の中にも出てきていない。そのあたりの説明をいただきたい。

委員： まず、旧五街道についてだが、前回第1回の会議資料〔資料5〕の21 ページ、分析結果を踏まえた基本的な考え方（案）のところではふれている。考え方①、地域資源の磨き上げによる滞在型観光の推進の前文のところ、「本市には、金勝山をはじめ歴史街道（東海道・中山道）や神社仏閣といった緑豊かな自然環境や歴史、文化遺産が数多く存在するとともに、「馬のまち」として全国的にも広く知られています」ということでふれられている。今回の資料では、その部分が省かれている形式になっている。

事務局： 他に、資料の「栗東市 地域資源活用ビジョン」の重点プロジェクト4で旧五街道という形で説明書きがあり、また、重点プロジェクト2では、馬関係、JRA についての説明書きを記載している。ただ、本会議資料の SWOT 分析で

は、「強み」や「機会」の部分で直接、旧五街道はふれられていないということはあるが、地域資源活用ビジョンでも非常に観光と関連するところになってくるので、連携した形で記載させていただいた。

委員： 改めて、2市しかなくて、それがどうすごいのかというのがちょっとわかりにくいので、教えていただきたい。

会長： いかがでしょうか。ちなみにもう1市は草津市ですね。

委員： 江戸につながる道としての起点は草津なので、ここから東の地域の話になる。理念としては漠然としすぎていて、何を未来に伝承していくのかとか、「歴史街道としての魅力」ということも含めて、ちょっとわかりにくい。

事務局： もう少し明確にと。

委員： 逆にそれを伸ばさなければならない理由はどこなのかなという。SWOT分析から抜けているということだが、他の2つ、JRAと金勝山系は一応入っている。あえて神社・古墳群を飛ばして街道というのを押していく理由も含めて、少し気になる。

会長： 議長として今のお話を受けとめると、要するに、豊富な歴史的遺産があるということの具体的な例が寺社であり、古墳群であり、街道があったことによって築き上げられてきた歴史的な遺産というものが現実に残っているし、それから記憶も、文化的な伝承も残っている。つまり豊富な歴史的遺産ということを説明するための文章として、もう少しこなれたものがあっていいのではないかと受けとめた。

この点は、事務局でさらにもんでいただくということによろしいか。歴史的遺産をベースにまちの魅力を磨き上げていくのだということが、ここで出てくるべきだという話ですよ。

委員： はい。

会長： 1段落目にこの話が出てくるということ自体はよろしいですか。

委員： 私は下戸山だが、例えばお田植え祭とか、栗東の祭りというのは基本的に春・秋だと思っている。農耕が主たるところでの地域伝承という意味でも、街道

というのは、市民にとってイメージできるものなのだろうかと疑問に思う。

それでもやはり街道を押し進めていくというのであれば、ある程度具体的な話が出てこないと、市の内部にもっと知ってほしいというのが一番という会長の話も含めて、今回の方針というのは内部だという中で、ギャップがあるのではないかというのが正直なところ。目川地域は「東海道ほっこりまつり」ですごく街道を押し進めているが、どちらかという、地元ががんばっているのは春祭り、秋祭りだ。

会 長： もう少し私の受け止めたことを申し上げますと、街道はある種の近世の歴史だ。あるいは、戦国時代から近世にかけて近江という地域が果たした役割ということについて考えるとすれば、街道というのは非常に重要だ。しかし、寺社はむしろ古代から中世にかけて様々な動きがあったということは、この博物館の展示でもよく分かる。もう一つは民俗伝承。展示を見ると、村々の祭りのような民俗伝承には非常にユニークなものがある。

そういったことも含めて考えると、街道だけに代表させるのはちょっと荷が重いということですね。そこは説明の仕方や、あるいは何を素材として取り上げていくべきなのかということについては、今後の大きなテーマになってくると思う。

とにかく、この基本理念の第1段落のところについては、歴史的な魅力を磨き上げていくということを説明するために、もう少し包括的な説明をするような文章を考えていくということによろしいでしょうか。

委 員： 上位計画との関係だが、総合計画で観光が位置づけられているということで、この観光振興ビジョンの基本理念につながってくるはずだ。なので、その先には、将来都市像としての「健やか、にぎわい都市」栗東という第五次総合計画でうたっているところにどう持っていくかという手段として、観光を理念でどう持っていきましょうという話になるのでは。そう考えると、観光をどう使ってそこに持っていくのかというところが欠落した理念になっているように思う。

要は、街道もあり、JRAもあるということは分かるが、農耕のまちという面もあり、実際、市面積の半分以上を森林が占めている。それを観光という手段を用いて、栗東のにぎわいをどのように取り組んでいくのかというのがこの理念にあってしかるべきで、基本方針としてそういうところがかかれているのがごく自然なのではと思う。

委 員： 関連して、これは五次の総合計画を目的としているが、本当は六次ではない

か。六次は現在どのような進捗状況か。

事務局： 今は資料で五次を上げているが、ご承知いただいている通り、今年度、第六次総合計画の策定を進めている。途中のため、明確なことは申し上げられないが、基本理念の最後に記載させていただいている「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市栗東」、これは資料3ページにも掲載しているが、こういったものも目指していきましょうということで今、第六次総合計画を策定している。

そういった意味で、基本理念の最後にいつまでも住み続けたい、そして、今、住んでいる方だけでなく、住んでいない方や栗東にかかわりのある方に常ににかかわりを持ち続けてもらいたいという視点で、この観光ビジョンをつくっていきたいと考えている。

今、委員からのご指摘のように、第六次総合計画をつくりながら観光ビジョンもつくっていくということで、ややこしい点もあるが、第六次は「いつまでも住み続けたいくなるまち、安心な元気都市栗東」を目指す中で策定を進めているところ。

会 長： 第六次総合計画の中で、今つくろうとしているビジョンの成果が六次計画の中に具現化していくということになるわけですね。

ただ、六次のゴールがどうなるかまだ分からないので、観光ビジョンとしてどういうゴールを持てばいいかということはまだ分からない、総合計画の側からは決められないということになりますね。

事務局： そうですね。今申し上げたように、並行してということです。第六次総合計画が決定していれば、それに基づいた形での観光振興ビジョンづくりということになるが、同時並行のため、本日の意見も踏まえる中でそれを逆に総合計画にも反映していきたいと考えている。

委 員： 卵が先かニワトリが先かという議論になってしまうので、そこにふれての発言はちょっと控えますが、住んでいる人にとって何が重要かという視点で、例えば農業をやっている人、林業をやっている人がいつまでも住み続けたいくなるのであれば、そこで生業が成立しているはずだ。しかし、跡継ぎがいない、人が出ていくということが一部の地域では実際に起こっている。

その課題に対して今の状況をどう整理して、どうしていききたいのかということに対して、第五次の「健やか・にぎわい都市」や、第六次でうたうような「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市栗東」というところが一定のゴール

になると思う。そこに観光というのをどう作用させて、ゴールに導いていかかというのをこの基本理念でうたわないことには、具体的な施策や戦略が見えてこない。

マーケットがないところで何をやっても一緒ではないか。戦略も何も無いことになる。そのあたりの現状の状況把握と課題の整理というのをもう少ししっかりした上で理念というのがあるほうが、目的としての観光ではなくて、手段として観光を用いていけるという核心につながっていくのではないかと思う。

会 長： まちを豊かにしていくための手段として観光戦略というものを位置づけるということですね。

委 員： そうですね。具体例を挙げると、金勝の観音寺とか走井は、高齢者ばかりになっており、林業は金勝生産森林組合が少し前までは自前で間伐ができていたが、もう外注しなければできなくなっている。農業も、耕作放棄地が目立つようになり、空き家も点在しているため、地域の活力をどう保っていくか。

栗東駅前にたくさん人が来ているからといって、その人たちから取ったお金を田舎に注ぎ込むというのは、少し違うと思う。お金を使わず、どうやってにぎわいを生み出し、地域のよさを伝えていくかと考えると、今、国が押しているのは観光であり、グリーンツーリズム、ウェルネスツーリズム、エコツアー。こういう観光を手段としてにぎわいを生もうとしている。国が押しているから今がチャンスだと思う。国からの補助金で、市の単費でやらなくてもできるような事業がたくさんあるので、そこをどう捉えて基本理念に生かしていくかということ、この会議でも議論したほうがいいのではと思う。

会 長： 今のお話を受けとめて、例えば、この基本理念の中のどこかに、観光振興ビジョンというより観光を“てこ”としてまちの振興を図るという捉え方である、ということを考え方として入れておく必要があるということでしょうか。

委 員： 考え方として、それが大前提としてあったほうが良い。

人口1人減ったら、交流人口を13人増やすことによってその損失を賄うことができる。国もなぜこれだけ観光を押し出すかというと、それが輸出額につながるからだ。外貨を獲得するために観光が有効だということだ。いくら企業を呼んでも、人件費が高いところでは工場を建てられないというところで、交流人口を増やすことで生業を立てているところが先進国の中にもあるため、それをお手本にしよう、日本にはコンテンツがたくさんあるため、それを生かそうということが、今の政府の方針だ。それに沿って滋賀県も今回、「健康しがツーリ

ズムビジョン 2022」というものをつくった。なので、各市町でどういうことができるかということも、国の施策があり、県の方針があり、では市としてはこうやっていこう、というのをもう少し具体的にここで示せると一番いいのではと思う。

委員： 観光という切り口で、今の地方に起こっている課題を全て解決できるとはやはり思えない。

県では、交流人口をふやして、観光消費額を拡大させることによって経済の活性化を図るというのを目標に、観光振興に取り組んでいる。ただ、今回、この案で出された基本理念としては、最初に会長がおっしゃったように、外からの誘客という観点ではなく、住民の誇りづくりを進めることで都市としての魅力を高め、結果的にそれが人を呼び込むことになるだろうとこういう考えのもとでつくっている。この考えは私は非常によく分かると感じた。

結局、観光は来てもらう人に対してではなく、やはり県でする施策であれば県民の幸せにつながるものでなければならないと思っているので、その考え方として、先ほど言われた基本理念は非常によくわかった。

ただ、一つ、観光振興に向けた理念、基本方針の検討であるからには、外から来てもらうためにも、これだけいいところなんだということを外に発信することは重要。基本方針のところ、効果的な発信という柱があってもいいのではと思う。

会長： 情報の発信という言葉は、内向けにも外向けにも明示的には書かれていない。それを入れておくという必要があると思う。

先ほどのお話ですが、観光ビジョンというものは独立してこれだけで動くものではなく、他の施策としっかり有機的に結びつけながらやっていかなければいけないということが、主張ではないかなという気がする。そのあたりはやはり文言として入れておきたい。これは事務局でまた、もんでください。

その他の観点からご意見はないでしょうか。

私から一委員としての意見ですが、二つあります。一つは、観光産業政策という観点がちょっと漏れてしまっていると感じています。17 ページでも産業政策的な捉え方というのが出ていおり、資料 14・15 ページの SWOT 分析でも産業政策的な観点がでてくる。観光産業の盛り上げということの一つの方針として入れておくべきではないかと感じる。

その際に、単に集客を図るとか、外からお金を持ってくるという発想ではなく、できたら新しいビジネスを生み出していく、スタートアップ支援のような発想を、それこそ外からそういうところに来てもらうということも含めて、新しいビジネス

が立ち上がってくるような環境づくり、そういったことを方針として打ち出しておく必要があるのではないかと思う。これは、私個人として意見を申し上げたので、事務局でもんでいただきたい。

委員： 会長もご参加のシティーセールス戦略会議でも同様のことを言っているが、この基本理念は、本当は最後の4行だけではないか。前振りで具体的なことを書いてしまうからややこしくなっているように思う。

下4行だけを書いてしまって、次に基本方針として、情報発信や新規産業の必要性や、具体的施策として街道やJRAの馬のことを取り上げようという短期的な施策に入っていくべきでは。最初から具体的施策が入っていることで、理念でなくなっているのではないかなと。

あえて中向けに一旦は必要というのが新たな理念になってくると思う。それが混同しているから、「SWOTにはないのに」とか「なぜ街道なのか」「なぜ馬なのか」となってしまうのでは。具体的な内容を理念に盛り込むこと自体がおかしいのではないのかなと思う。

会長： 確かにそうですね。

事務局： 前段については、市の魅力について列記させていただいている。そして、最終の4行で、そういった魅力を用いた中で、先ほど外部への情報発信というご意見もいただきましたが、どちらかという内部での愛着、誇りといったものの醸成をまずはこのビジョンの中で織り込んでいく。そして、一部は当然ながら外部に対しての効果的な情報発信も取り入れていくというようなことで組み立てていきたいと思う。

会長： そうですね。基本理念のほうの文言づくりをもう一回、もんでみましょう。4行だけで済みますね。上の3段落については、別の形でそこに補足しておくということ、あるいは補足しないということも含めて考えたほうがいいのかも思えません。

そのほかはいかがでしょうか。

会長： 16ページの観光入込客数データだが、フォレストアドベンチャーさんは、このデータでは数字はあらわれていないそうですね。

委員： 2017年の7月にオープンした。

会 長： 来客数はどれぐらいですか。

委 員： 2018年で8,000人。2019年は現状で8,000人近くだ。

会 長： 前年比倍という感じですか。

委 員： 前年比倍くらいのペースです。

会 長： そうなると、このグラフの中ではどれぐらいの位置に入ってくるのか、目盛りがないグラフなので何とも言いようがないですね。結構な大きな比重を占めることになるのでしょうか。

「道の駅アグリ郷」というのは、要するにショッピングモールみたいな感じで、高速道路を使っているところから人が来ているということですね。栗東に来ているというわけではないですね。

委 員： これは高速道路をほとんど使っていないと思う。ETC2.0の利用状況結果というのは出ているのか。

事務局： 出していない。

委 員： ほとんど使っていないという話をよく聞く。

事務局： データはあることはあるが、数字がつかめていないというのが正直なところだ。

会 長： 何かそのほか、ご意見、ご感想は。

委 員： 市民の誇り、市の魅力というのも、自慢する相手があってこそのことだと思う。シティーセールスプロモーションでは市民向けにそういう啓発をしていくということで、あくまでも観光というのは来てもらって、どう感じてもらうか。本市にお住まいの方が、外から来た方にどう伝えるかが重要になってくるので、そこをシティーセールスプロモーションとはしっかり区別をして、理念として落とし込んでいただきたい。シティーセールスプロモーションでは市民の醸成を図る、観光振興ビジョンでは来られた人に、ということだと思う。

例えば、テレビ番組の『笑ってこらえて』のダーツの旅を観ていると、「あなたのまちはどういうところが見どころですか」と言われたとき、「何もない

な」と答える人がたまにいらっしやる。そういうまちにはならないように。海外の有名観光地へ行ったら、「ここがすごい」「あそこには行ったか」と自慢ばかりされる。井の中の蛙にならずにちゃんとそういう発信ができるように、理念として一つあるといいと思う。

事務局： 17 ページの基本的な考え方の2つ目で、受け入れ体制、要はおもてなしというような言葉が出てくるが、私たち、栗東市に住んでいる者、関係のある者が栗東市を自慢できる、そういったような人づくり、体制づくりも必要であると基本構想の中ではうたっているの、そういったことを基本方針のほうにも移行していくというようなことだと思ふ。そういったものは取り入れさせていただきたい。

会長： 今のお話は非常に重要な点で、自分たちが何者なのかということを他者に説明できるようになるということは、何よりも自分たち自身を愛するとかおもしろがるとかそういうプロセスがあって、それで初めて他者に対して説明できるようになるということだと思ふ。体験したり、共有したり、そういうプロセスがあってこそだと思ふ。

そういう意味で、先ほど、効果的な発信という話があったが、広報はやはり大きな役割を持つ。もう一つは教育だ。この施設はおそらく教育委員会が所管だと思うが、この施設自体がまさに誇りを醸成していくための重要な拠点になり得るわけで、そのことを教育委員会がかかわらない状態でこの議論をしていくというのは、ちょっと余り不毛だなという感じがする。

それから、もう一つは、草津市を含めて近隣の各自治体とのまさに連携、コラボレーションが必ず必要になってくるのではないかと思ふ。

そういう意味で、市役所内での他部局である教育委員会、広報とかそういったところも含めて活動していくということ。それから、近隣自治体に対しても一定リーダーシップを発揮しながら、共同歩調をつくっていく。そういった考え方で、魅力の再発見と醸成をやっていくべきじゃないか思ふ。

会長としてはそういう方向で、この理念と基本方針というものの最終的な案をもんでいきたい。

まだご発言のない方がおられますが、いかがでしょうか。

委員： 市レベルだけで観光というのは完結してしまうのかなというのを思っており、今、会長のご提案にもあったように、ある程度のところで観光協会がタイアップして、それなりに広域的に一緒に何かを取り組んでいくという方法はあり得るのか。

委員： 大いにあると思う。ただ、当協会としてはまだ脆弱な部分が多い。今年度は、来年度頭での法人化に向けて準備をしているところで、法人化以降は機動的に動けるようになってくると思う。ただ、市行政の中に事務局があった時期があった流れで、広域連携では協会として呼ばれていない会議が残念ながらいくつかあった。そういうところにも今後は顔を出して、つながりを持っていかれたと思っている。

行政職員の方は定期的な配置転換があるが、協会の職員は、自治体によって状況は異なるが、長期にわたってつながりを積み上げていくということが可能なので、今後、そういうことは湖南省含めて街道筋と湖南4市では、少しずつでも進めていけたらと思っている。

会長： 例えば先ほどの SWOT 分析の中にも出ていたが、足の問題です。車に依存しない観光のインフラづくりというものが、弱みとして出ていて、これを強めなければいけないといけない。これは単に観光の問題だけではなく、そういった場合に、もちろん交通事業者にやってもらわないといけないことは多々あるが、一方で既存の交通網を上手に使うための情報を集約して発信していく、あるいはスマホで使えるようにするといったようなベンチャービジネス。MaaS (モビリティ・アズ・ア・サービス) の担い手というのは、世界的に見ても、基本的にやっぱりベンチャービジネスだ。そういった企業が、栗東市に限らずですが、近隣で誕生してくる余地というのはあるのか。そういう企業が、観光協会に参画して、リードしていくことがあればいいと思うが、そういう萌芽はないですか。

委員： 今のところはない。そこはチャンスなので、協会が人材を確保できるのであればそういうこともやっていくのが、日本版 DMO とかの一つ先のことなのかとは思。MaaS の先進的な取り組みは、台湾とかが特にそうだが、海外企業が多く、日本ではなかなか育っていない。公的資金を使いながらも協会モデルケースを一つできれば、先進事例になるのではないかと。誰かがやるのを待つのも一つの手ではあるが、採算がいきなりとれるような事業ではないと思うので。

当協会でも、春と秋に「こんぜめぐりちゃんバス」を金勝寺と手原駅間で動かしている。現状、自転車は輪行バッグに入れていればバスに積んで乗ってもらえるが、バスにサイクルラックをつけて自転車を組んだ状態でも乗れるようにするというのも一つ施策としては考えようがあるのかなど。

あと、当協会には帝産湖南交通が理事として入っていただいている、民間企業とも連携していきたい。現に大野神社へは草津駅から直通で帝産湖南交通が

運航するようになった。

会 長： 観光インフラの宿泊施設も含めて考えるときに、栗東市だけで解決する問題というのはほぼないので、広域的に考えなければいけない。市役所だけでなく栗東市民の方や栗東の企業がどこかで主導権をとるということによって、全体を活性化することができるかもしれない。こういった観点で後押しできると思います。

いずれにしても、MaaSは新しい動きが出てくることを期待したいところですね。とにかく不便ですからね。

委 員： はい。後ろ盾になるような振興ビジョンになると一番いいですね。

会 長： 私はきょうもバスできました。駅から「コミュニティセンター・金勝」行きのバスに乗ろうと時間を合わせてきたのですが、駅に着いたらそのコミュニティセンター行きのバスがない。「トレセン・西住宅」行きが同じ時間にあって、私はある程度地理がわかっているので、すぐにこれは情報がずれているんだなということがわかりましたが、バスの本数を増やすというのは、現実問題、大変だ。情報を上手に扱うことで随分使いやすいものになる余地があるので、それを今日は本当に肌身で感じました。

他に何かありませんか。

委 員： 事前に資料をいただいてから、理念や基本方針を掲げてトップダウンで皆さんに提示したところで、どうすれば市民の皆さんに届くだろうというのをずっと考えていた。やはりトップダウンよりもボトムアップのほうが、一番息が長く続く政策だと思う。ボトムアップしようと思ったら、市民、各種団体にしろ、火をつけるというか、やる気にさせる方針じゃないと駄目だなと思う。

そう考えると、理念や方針は抽象的な言葉なので、この方針の次に具体的手段や政策を見せていかないと、市民一人一人のやる気に火をつける着火剤にはならないのではないかと。文章で出しても、どこに、どう届くか、どう着火していくのかというのが私自身、今、ちょっと見えていないので、どうしたらいいのかと考えていた。

そんななか、先日、家族で外出した際にたまたま伊勢落の在所を通ると、息子が「ここ、何で伊勢落なの」と聞いてきたので、「伊勢落というのは昔、お伊勢さんから朝早く旅立った人が、栗東の伊勢落を通るころに比叡山に日が落ちるといいうタイミングを見はからって伊勢落となった、日が落ちて宿をとろうかということで草津陣のところに泊まった」と答えたとき、昔、ここに人が通っ

ていたんだというイメージが湧いた。その本陣というところに泊ってみたい、行ってみたいということが「じゃあ、実際行ってみよう」ということにつながっていく。

きょうの方針の中の「物語の再発見」とか「街道の交流」というところで、次につながるストーリーが、大人が知り、子供が知ることによって「何で」につながっていくと、次へのヒントがいっぱい出てくるのではないかな。地域の言葉を知るといっても、一つの地域愛を育てることにもつながっていくのかなと思った。

やはりボトムアップをさせるためには、金勝は何で「こんぜ」と読むのとか、その辺の身近な言葉から教えていくのも一つではと思う。教育委員会とかいろんなところにもお願いしないといけないかもしれないが、本当に細かいところから火をつけていくというのも良いのではないかな。この方針の具体策には入らないかもしれないが、そういうやり方もあるということがニュアンスでも入ると、皆さんも動きやすくなるのでは思う。

会 長： 私もきょう博物館を見学して地名に関する謎が一番大きな謎として残った。何の説明もないのはもったいない。

それから、草の根から火が燃え上がるような状況をつくっていくための着火剤として、何を打ち出すべきかというご指摘だ。これはまさに次回と次々回の会議の大きなテーマということになってくる。

委 員： これまでの議論を聞いて思ったのだが、基本理念というのは、まず県民、市民の方に、栗東市のいいところを情報発信して好きになってもらう。これは果たして観光振興なのか。教育の分野かもしれないし、まちづくりというか、総合計画として市民に対して歴史や自然環境の豊かさを「知ってもらう」ということも、観光振興で最初にやらないといけないことなのかという印象がある。

まずそこから始めるなら、かなり大変な作業ではないか。それをやって、ようやく市民が栗東市を好きになり、人が来て、来た人が好きになって、市民もハッピーになるというところに至るまで、私の中では5段階ぐらいのイメージがある。今日の話だと、この観光振興ビジョンという立ち位置が、市民にまちを好きになってもらうというスタート地点。かなり大変だなと。

会 長： それについて、私のほうからご説明させていただきますね。

非常に重要なご指摘だ。つまり、こういう会議というのは何をすべきかという話でもある。資料3ページの図を見ていただくと、まさに観光振興ビジョンは全てとリンクしている。しかも、下から支えるか、上から引っ張るかは別として、この中で中核的な部分を担う可能性がある。つまり、総合戦略とかシ

ティーセールス戦略がそれぞれ別の動き方をしているということに対して、つなげなきやまずいんじゃないですかという位置づけだと思っている。

逆に言えば、観光振興の部門あるいは政策が、ほかと無関係に「これから観光振興だ、どんどん行け」というそういう政策であったとしたら、それこそ観光バブルになりかねない。

つまり、総合戦略やシティーセールス戦略という大げさなもの、この観光振興ビジョンのところで議論するということというのは、実は同じものであっていいのではないかということだ。縦割り行政の弊害を打ち壊していこうということが、私の問題意識だ。

まずそこをご理解いただいた上で、物語を発見するということをごここからやり出すということは大変なことだな、これはむしろほかの部署の仕事ではないかということですね。おっしゃるとおりで、これは直接的にはやっぱり教育委員会あたりの本業なんじゃないかなというふうに思いますが、一方で今、観光というものが、単に「行ったことのないところに行ってみて」という段階から、その町々で生み出されてきた、あるいは生み出されている物語を共有するために来る、行く、こういう時代に入ってきている。モノの消費ではなくコトの消費ということですが、そういう時代に入ってきているからこそ、観光振興を考えるとときには物語から考えていくというのが、新しいんじゃないのかなというのが私の意見だ。

だから、大野神社が大人気になっているのも、一つの物語ですよ。たまたま当たっただけと見るのではなく、あそこに集まっている人たち一人一人の心の中の動きとか、それを受けとめた神社の宮司さんの心の動きとか、一人一人のライフストーリー、そういったものを全体として愛していく、豊かにしていく、そういう方向で観光振興というものを考えていくというのが新しいんじゃないのかなということですね。

ですから、今のご指摘の部分は、私の考え方がかなり強く反映しているので、ここは私から答えさせてもらいました。さすがに、なかなか鋭いですね。

委員： いえ、大変だなと思って。

会長： でも、物語を再発見するのは、まさに市民の皆さんであり、ここにかかわっておられる皆さん方で、誰か役所が発見して「さあ、これで行け」というものではないですね。

委員： 基本理念としては、この下の4行で大体網羅されていると思う。今後、アクションプランができてくると思うが、それを考える中で、旧五街道とかトレー

ニングセンターというものを反映させていくのかなと、私は基本理念のたたき台を読ませてもらって思った。これで大体行けるのではと思う。

会長： では、今まで出たお話をまとめさせていただきますと、まず、基本理念の部分については、一番下の4行に収れんさせていき、その上の3段落については、それを補足する部分として何らかの形で活用する。こういう方向で基本理念の文言を整理していきたい。

それから、基本方針については、方針1はこれでよろしいでしょうか。「物語の再発見と誇りの創出」を1番目に置く。そして、方針2は上の基本理念に出てくる内容と関係しますし、方針3の自然の部分も同じく関係します。これは、方針1を支えるものとして位置づけて活用していく。言葉について、街道という言葉はどう使うかを慎重に考える必要があるかなと思いますので、ここはもんでいきたい。

それから、効果的な発信、広報的な活動ですね。

それから、産業政策あるいは教育政策、交通政策などとのリンクを観光政策に結びつけていくということですね。

広域的な連携についても、一つの重要な方針として打ち出していく。

今日のご意見はこういったふうにまとめられるのではないかなと思う。ですから、方針は今、三つですが、四つ、五つになっていくということでお含み置きいただければと思う。

今までの議論をまとめさせていただきますが、これを踏まえて、実際にどう動けばいいのという話になる。それについて、次回と次々回に、どういう行動目標を立てて実施していくか、それから行動目標を評価する方法はあるのか、ないのか。こういったより具体的な議論をしていただく予定だ。

事務局サイドにおいては、アクションプランの策定、それから KPI の策定のたたき台的なようなものを次回は出していただいて、それを議論した上で、次々回にそれを確定させていく、そのような流れで考えている。アクションプランでぜひ、創造性のあふれるものを期待したい。

最後に、「ご意見シート」というのをお配りしている。これは全体的なことでもいいのですが、何か行動目標としてこういうものを掲げたらどうかというのがありましたら、メールで事務局のほうにお届けいただければありがたい。ぜひ草の根で、ボトムアップで盛り上がるような提案にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(2)その他

事務局： 本日は、基本理念、基本方針をたたき台としてお示しをさせていただきました。特に基本方針でお示しした3点を中心に、ただいま会長からあったように、効果的な情報発信や交通、教育、産業分野との連携、また広域の連携といったものを基本方針の中に盛り込む中で、少し飛躍した点もありますが、17ページに基本的な考え方を五つお示しさせていただきました。それらに基づき、再度、基本方針のほうを3点、きょう、お示ししたが、それにプラスアルファする中でまたお示しさせていただきたいと考えている。

次回は、9月に入ってからぐらいで第3回目を開催させていただきたい。日程表のほうをお配りしているので、皆様方のスケジュールのご確認をお願いいたします。

5. 閉会

(商工観光労政課長挨拶)